

日本教育方法学会

第39回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 9 月 27 日・土	8 : 30	受 付 開 始								
	9 : 30	課 題 研 究 I 「心の教育」の教育方法学的検討 ー「心のノート」をめぐってー					課 題 研 究 II 教師教育のカリキュラム改革を展望する ー養成段階における改革の核は何かー			
	11 : 30									
	11 : 40									
	12 : 30	総 会								
	13 : 30	休 憩								
		自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7	自由 研究 8	自由 研究 9
	15 : 40									
	15 : 50									
		シ ン ポ ジ ウ ム 現代社会における学力の在り方ー教育方法学の視点からー								
	18 : 20									
	18 : 30									
	20 : 00	会 員 懇 親 会								

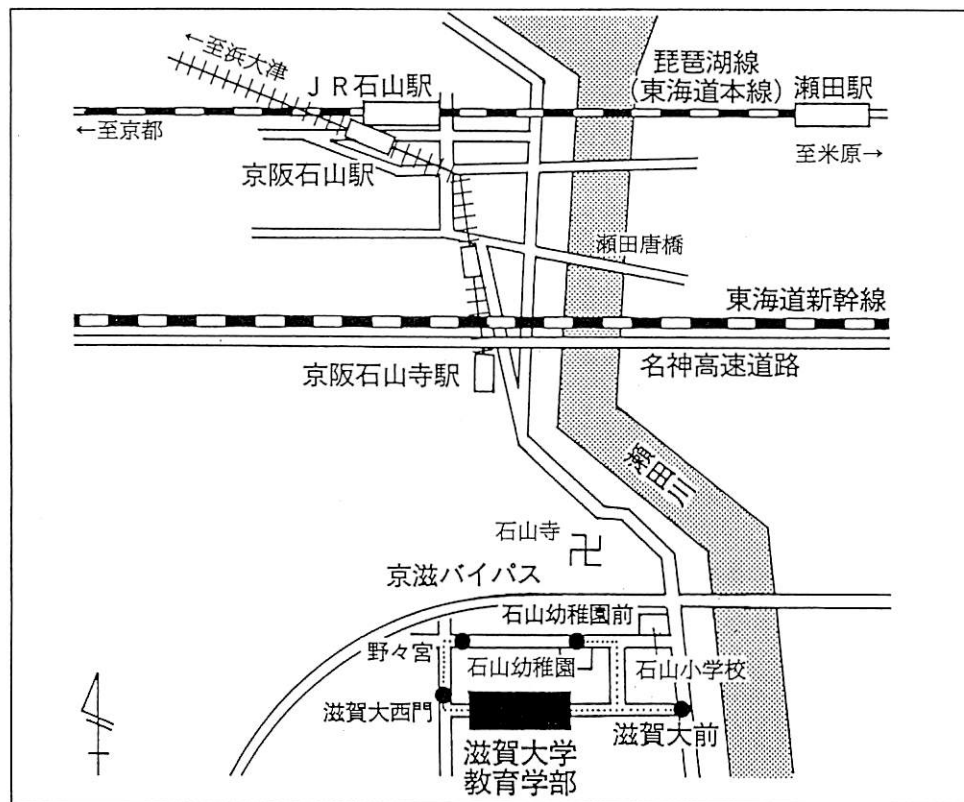
第 二 日 9 月 28 日・日	9：00	受 付 開 始								
	9：30	自由 研究 10	自由 研究 11	自由 研究 12	自由 研究 13	自由 研究 14	自由 研究 15	自由 研究 16	自由 研究 17	自由 研究 18
	12：10	休 憩								
	13：00	課 題 研 究 III 新しい学力ーメディア・リテラシーを どう育成していくかー				課 題 研 究 IV 授業実践研究・子どもたちはどこでどう学んでいるのか ー授業実践研究の方法論の模索 (国語科を中心として)ー				
	15：00									
	15：10									
		ラ ウ ン ド テ ー ブ ル								
	17：00									

2003年 9 月27日(土)・ 9 月28日(日)
於 滋賀大学教育学部 (大津キャンパス)

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、滋賀大学大津キャンパスです。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：大会第1日目(9月27日・土)は8:30, 第2日目(9月28日・日)は9:00からです。
受付は研究棟1階ポーチで行います。
 - ・大会参加費(発表要旨集録代を含む)は、一般会員3,500円, 学生会員2,500円です。
 - ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費(一般会員8,000円, 学生会員6,000円)を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法32』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は3,500円を予定しております。詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：土日ですが、学内の生協食堂に営業していただきますので、どうぞご利用下さい。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
 - 個人研究：発表20分 質疑10分
 - 共同研究：発表30分 質疑10分(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。
5. 会場校連絡先：〒520-0862 大津市平津2-5-1 滋賀大学教育学部 清水毅四郎研究室

大会に関するお問い合わせは、学会事務局(TEL./FAX. 0824-24-6744)にお願いいたします。



滋賀大学教育学部（大津キャンパス）への交通手段については、下記をご参照ください。

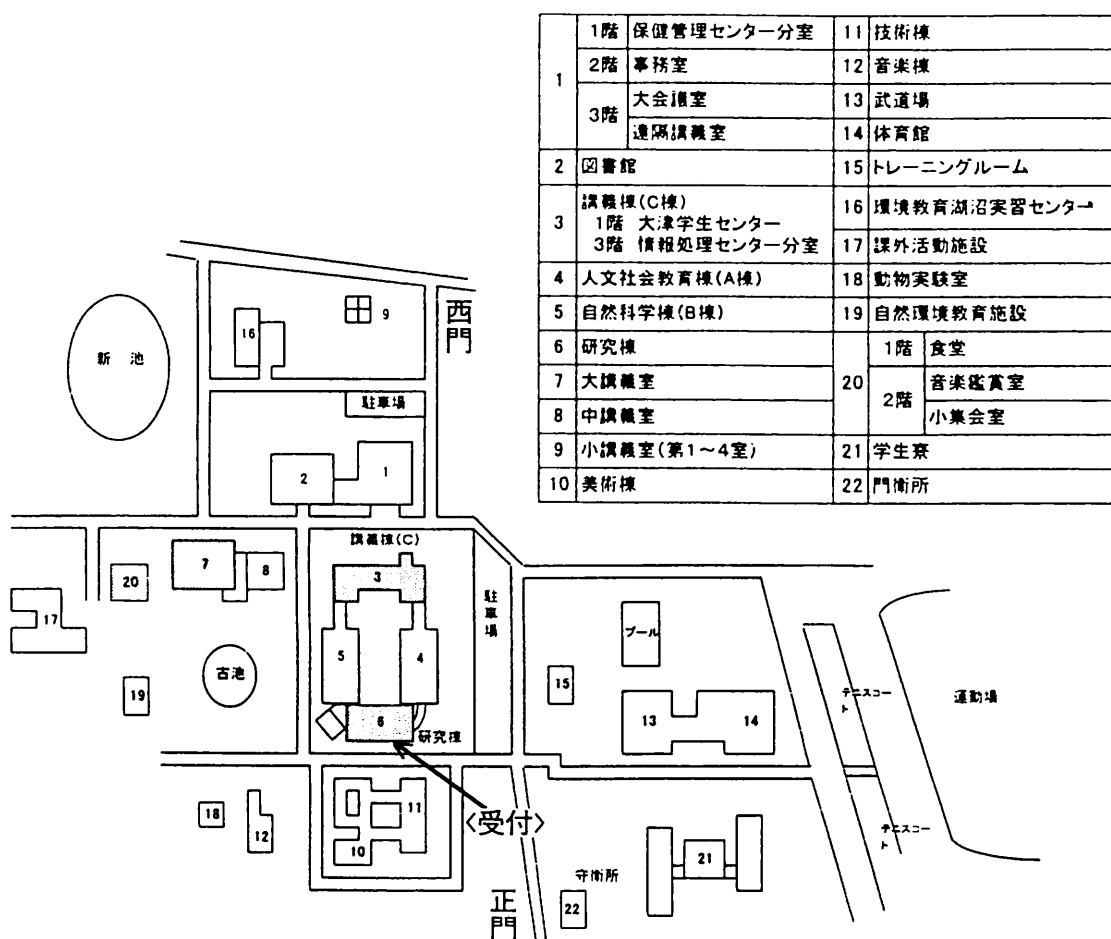
JR 石山駅または京阪石山寺駅で下車し、京阪バスにて

- ・大石行き（4 番）で〈滋賀大前〉下車，徒歩約 7 分
- ・石山団地行き（1 番）で〈石山幼稚園前〉または〈野々宮〉下車，徒歩約 8 分
- ・南郷中学校・新浜行き（52 番），または南郷二丁目東行き（52 番）で〈滋賀大西門〉下車，すぐ

JR 石山駅からキャンパスまでタクシーで約1,300円
びわこタクシー TEL. 077-537-0080/077-534-6677

- ・国道422号線，バス停〈滋賀大前〉より 1 分
- ・京滋バイパス（宇治方面より）〈石山 IC〉より 2 分
- ・名神高速（彦根方面より）〈瀬田東 IC〉より京滋バイパス側道経由10分
- ・名神高速（大阪方面より）〈瀬田西 IC〉より京滋バイパス側道経由10分

〈会場配置図〉



※ 4と5（人文社会教育棟と自然科学棟）は通り抜けできます。

会場配置

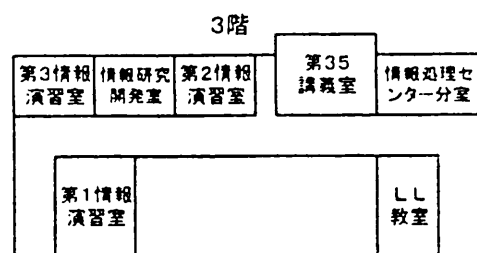
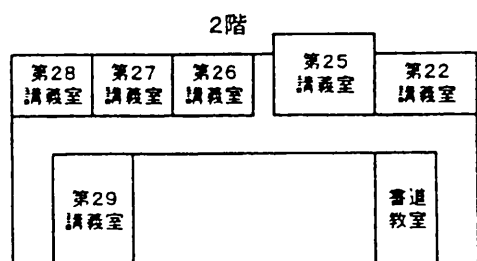
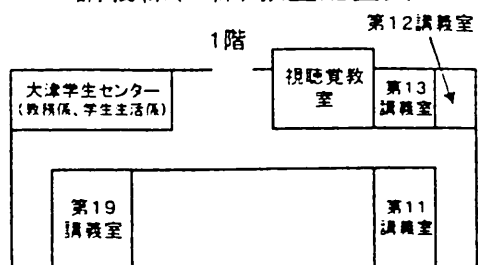
課題研究Ⅰ・Ⅳ：第25講義室
 課題研究Ⅱ・Ⅲ：第35講義室
 総会・シンポジウム：大講義室
 自由研究1・10：第6講義室
 自由研究2・11：第7講義室
 自由研究3・12：第9講義室
 自由研究4・13：第11講義室
 自由研究5・14：視聴覚教室
 自由研究6・15：第22講義室
 自由研究7・16：第27講義室
 自由研究8・17：第28講義室
 自由研究9・18：第29講義室

ラウンドテーブル①：第6講義室
 〃 ②：第7講義室
 〃 ③：第9講義室

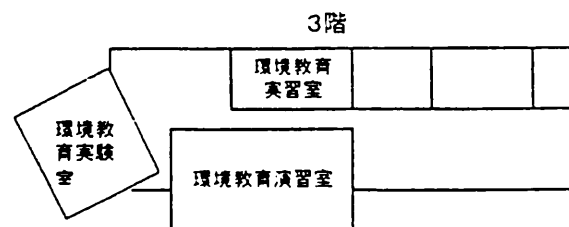
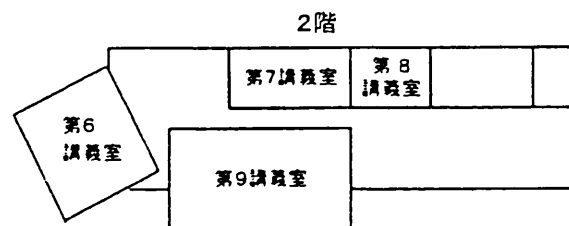
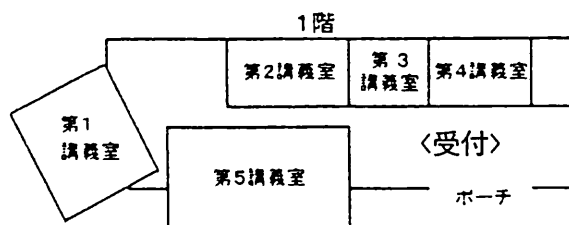
会員控室：第1講義室／第5講義室 お茶などを用意しております。
 事務局：第4講義室

* 会員懇親会は、大学生協食堂で開催いたします。

講義棟(C棟)教室配置図



研究棟教室配置図



9月27日(土) 9:30~11:30

課題研究 I

「心の教育」の教育方法学的検討
—「心のノート」をめぐって—

(第25講義室)

コーディネーター

子 安 潤 (愛知教育大学)

高 田 清 (福岡教育大学)

藤 田 昌 士 (元・立教大学)

司会者

子 安 潤 (愛知教育大学)

高 田 清 (福岡教育大学)

提案者

今 村 増 弘 (滋賀県豊郷小学校)	心のノートの活用を通して……………	27
生 越 達 (茨 城 大 学)	子どもの実態からとらえる「心の教育」……………	29
	—生活の中に子どもの「こころ」を聴く—	
奥 平 康 照 (和 光 大 学)	道徳教育から「心の教育」・「心のノート」へ 移り行く理由……………	31

(設定趣旨)

「心の教育」とはなにか。いまなぜ「心の教育」がいわれるのか。教育方法学研究は「心の教育」とどのように切り結ぶのか。昨年度、文部科学省が全国国公立の小中学生に配布した「心のノート」をどうみるかという問いを中心に、広くは「心の教育」にかかわる上記のような問いに迫りたい。

なお、本課題研究の討論は長崎の少年事件など、最近の少年事件にも及ぶこととなるう。

課題研究 II

教師教育のカリキュラム改革を展望する
ー養成段階における改革の核は何かー

(第35講義室)

コーディネーター・司会者

諸岡 康哉 (金沢大学)

湯浅 恭正 (香川大学)

提案者

寺岡 英男 (福井大学) 教師の実践的力量形成とカリキュラム改革……………33

長澤 憲保 (兵庫教育大学) 学校システム改革の将来と新しい教師の資質能力

ーPerformance-based Standards を核にした

教員養成を中心にー……………35

指定討論者

石川 英志 (岐阜大学)

杉江 淑子 (滋賀大学)

徳岡 慶一 (京都教育大学)

(設定趣旨)

教員養成大学・学部 の在り方をめぐる議論を端緒に、教師教育カリキュラムの組織的検討が進められている(教大協の「『モデル・コア・カリキュラム』研究プロジェクト」による検討・同第二常置委員会編『教科教育学研究』誌の論考、等々)。そこでは教育の実践的・臨床的研究を柱にした改革構想や、教科専門の位置づけの再検討・「教科内容学」の提起など、示されている改革の方向は多岐に渡る。

本課題研究では、検討されている現在の改革の動向を踏まえつつ、教師教育の全体を捉え直し、教師の養成段階においてカリキュラム改革を進めるための核とは何かを明らかにする。学校システムの改変が急速に進みつつある現代において、求められる教師の理論的・実践的リテラシーとは何かなど、カリキュラム改革の視点とその方向を探ってみたい。

9月27日(土) 午後

自由研究 1

(第6講義室)

司会者 折出 健二(愛知教育大学)
河原 尚武(鹿児島大学)

- 13:30 ① 差異の尊重方法に関しての一考察
ー共生教育方法としてのポジショナリティ研究ー……………37
高橋 舞(立教大学大学院)
- 14:00 ② 特別支援教育における情報活用能力育成を目指した
カリキュラム開発と評価……………38
太田 容次(滋賀大学附属養護学校)
- 14:30 ③ 英国リメディアル教育の発展過程に関する研究……………39
新井 英靖(茨城大学)
- 15:00 ④ 臨床教育学をめぐる諸理論への批判的考察
ーM. フーコーの『臨床医学の誕生』の視点を手がかりにー……………40
小川 博久(日本女子大学)

自由研究 2

(第7講義室)

司会者 上野 ひろ美(奈良教育大学)
土井 捷三(神戸大学)

- 13:30 ① 昭和31年版幼稚園教育要領は保育現場でどのようにうけとめられたか
ー保育者のライフストーリーを通じてー……………41
田 甫 綾野(日本女子大学大学院)
- 14:00 ② 学習指導要領改訂に関わる諸要因に関する研究
ー政治的・経済的要因を中心にしてー……………42
藤原 孝雄(兵庫教育大学大学院)
- 14:30 ③ 内申書改革の現状ー全国調査の結果から見えてくるものー……………43
○谷川 とみ子(京都大学大学院)
田中 耕治(京都大学)
- 15:00 ④ 子どもと創る総合学習のカリキュラム
ー実践の軌跡と教師の意思決定に着目してー……………44
伏木 久始(信州大学)

自由研究 3

(第9講義室)

司会者 船越 勝(和歌山大学)
三上 勝夫(北海道教育大学)

- 13:30 ① 国語科教育における学習対象としての
「CM (commercial message)」の可能性……………45
原田 大介(広島大学大学院)
- 14:00 ② アメリカにおける入門期の読みの指導について
— M. J. アダムスのバランス・アプローチを中心に — ……46
新里 真世(京都大学大学院)
- 14:30 ③ リテラシー形成のポリティクス—実践的アプローチの比較検討—……………47
竹川 慎哉(名古屋大学大学院)
- 15:00 ④ 日本語話者のための英語音声指導に関する研究 (2)
—音楽を通じた発音訓練の効果について—……………48
○岩佐 玲子(恵泉女学園大学)
有馬 弥子(恵泉女学園大学)
Ken Fujioka (恵泉女学園大学)
Christiana Quick-Cleveland (Rudolf Steiner College)

自由研究 4

(第11講義室)

司会者 大槻 和夫(安田女子大学)
西森 章子(大阪府立大学)

- 13:30 ① 戦前生活綴方における教育評価の特質
—1930年代における綴方批評を中心に—……………49
川地 亜弥子(京都大学大学院)
- 14:00 ② 保幼小連携に関する教育方法学的検討
—「おおきなかぶ」の実践をめぐって— ……50
○大本 紀子(広島大学大学院)
深澤 広明(広島大学)
- 14:30 ③ 「話すこと・聞くこと」教育研究の射程……………51
森 美智代(鈴峯女子短期大学)
- 15:00 ④ 司書教諭の役割は何か—千葉県の実態調査から—……………52
原 勝子(南九州大学)

自由研究 5

(視聴覚教室)

司会者 藤原 幸男 (琉球大学)
吉崎 静夫 (日本女子大学)

- 13:30 ① 「オープンエンドの授業形態」に関する実践的再検討……………53
沼澤 清一 (山形県東郷小学校)
- 14:00 ② 小学校における「縦割り班」活動－取り組みの現状と課題－……………54
毛利 猛 (香川大学)
- 14:30 ③ 「学びの共同体」づくりと教師の指導性に関する一考察 (3) ……………55
三橋 謙一郎 (徳島文理大学)
- 15:00 ④ 教育実践問題の協同的研究体制の構築
－名古屋大学と東海市教育委員会の連携－……………56
○的場 正美 (名古屋大学)
柴田 好章 (名古屋大学)
山川 法子 (名古屋大学大学院)
○安達 仁美 (名古屋大学大学院)
白城 智教 (愛知県河和中学校)

自由研究 6

(第22講義室)

司会者 梅田 修 (滋賀大学)
山下 政俊 (島根大学)

- 13:30 ① 「よい子」の変容過程とその要因
－話し合い場面における抽出児の言動分析を通して－……………57
山川 法子 (名古屋大学大学院)
- 14:00 ② 越境が親の子育てにもたらすものはなにか
－異文化におけるアイデンティティ形成の戦略をめぐって－……………58
具 守 珍 (日本女子大学大学院)
- 14:30 ③ 道徳性の発達における内的葛藤に関する一考察……………59
中尾 香子 (広島大学大学院)
- 15:00 ④ 保育における「子ども文化」生成を媒介する文化財の役割
－絵本の造形的表現構造とノリの関係性－……………60
岩田 遵子 (県立新潟女子短期大学)

自由研究 7

(第27講義室)

司会者 小 泉 祥 一 (東 北 大 学)
水 内 宏 (千 葉 大 学)

- 13:30 ① イギリスにおける総合制改革の一考察
ー総合制中等学校における学級編成の分析を中心にー……………61
二 宮 衆 一 (京 都 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② アメリカのカリキュラムマネジメントに関する研究
ーサービスラーニング (Service-Learning) を切り口にー ……………62
倉 本 哲 男 (九 州 大 学 大 学 院)
- 14:30 ③ 『子どもにとって学ぶチャンスの多い学校の創造』
ー学びの質を変える。福島県三春町の教育改革からー……………63
井 田 勝 興 (福 島 県 三 春 小 学 校)
- 15:00 ④ スクールジャーナリズムとしての学校新聞
ー『新聞と教育』(1968-1998) の誌面分析を通してー ……………64
和井田 清 司 (上 越 教 育 大 学)

自由研究 8

(第28講義室)

司会者 長 尾 彰 夫 (大 阪 教 育 大 学)
山 口 満 (びわこ成蹊スポーツ大学)

- 13:30 ① 総合的な学習の時間における STS 教育のカリキュラム開発と評価
ー評価レベル表を用いてー……………65
黒 安 達 彦 (兵 庫 教 育 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② 低学年児童における自己評価能力の育成を考える
ー環境とのかかわりを通してー……………66
中 村 美 和 子 (杉 並 区 八 成 小 学 校)
- 14:30 ③ 授業における子どもの思考の展開過程
ー試行錯誤的・操作的な活動をもとに思考する授業場面の考察ー……………67
杉 本 憲 子 (茨 城 大 学)
- 15:00 ④ プロジェクト・アプローチによる学習活動のデザインと実践……………68
山 住 勝 広 (関 西 大 学)

司会者 本 田 敏 明 (茨 城 大 学)
松 下 佳 代 (京 都 大 学)

- 13:30 ① 授業内容の接続性からみた「高大連携」
—2002年度「福祉社会入門」の取り組みから考える—……………69
石 崎 摂 (日本福祉大学附属高校)
- 14:00 ② アメニティーのある授業 (4) —教室環境とメディアを中心として— ……70
大 庭 茂 美 (九 州 女 子 大 学)
- 14:30 ③ 学生の手による「教育シンポジウム」のとりくみ
—教育実習および教員採用試験を通じて学ぶ〈教師のあり方〉— ……71
小 島 勇 (東 京 電 機 大 学)
- 15:00 ④ 大学における初年度教育の試みについて—実践および評価—……………72
○栗 原 泰 子 (川 村 学 園 女 子 大 学)
○野 尻 裕 子 (川 村 学 園 女 子 大 学)
内海崎 貴 子 (川 村 学 園 女 子 大 学)

シンポジウム

現代社会における学力の在り方
—教育方法学の視点から—

(大講義室)

司会者

市川 博(帝京大学)

中野 和光(福岡教育大学)

提案者

梅原 利夫(和光大学)	学力テストをめぐる問題と 習熟度別学習指導の事例研究……………73
佐藤 学(東京大学)	学力問題の危機の位相—論題と展望……………75
田上 哲(香川大学)	学力と個的全体的性 —「学力」を教育の論理にとり戻す— ……76

(設定趣旨)

激動する社会にあって、新たな「知」の構築と共に、その学びの場である学校そのものの在り方も改革し、主体的に学びつづけ、問題解決を図っていく力の育成が要請されている。そこで、文部科学省は、各種の教育改革を進め、知識を教え込むこれまでの教育を改め、教育内容を思い切って削減して、自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら判断し、問題解決を図っていく力を育成する施策へと転換した。

だが、その新教育課程が施行される以前から、そのような教育では、基礎的基本的な力が身につかないとして、教育内容を質・量ともレベルアップすると共に、教え込んでいくことの必要性を強調する論調が高まり、従来の教育の体制に逆戻りする動きが進行しつつある。

この問題について、教育界以外からの発言も多く出されてきているが、教育社会学など教育の外側から論じたものが多く、教育の内容・方法の次元からきめ細かく究明していくことが不可欠と考える。そこで、教育方法学の視点から、学力論議を整理し、現代社会において求められる学力像と、その育成の在り方を具体的に明確にしていくことをめざして本テーマを設定した。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(9月27日(土)) 11:40~12:30

会 場 : 大講義室

主な議題 : 会務報告

2002年度決算

2004年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(9月27日(土)) 18:30から

会 場 : 大学生協食堂

会 費 : 3,500円(予定)

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第32巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

自由研究10

(第6講義室)

司会者 岩 垣 攝 (千 葉 大 学)
白 井 嘉 一 (福 島 大 学)

- 9:30 ① 高度経済成長期の四日市市における公害教育カリキュラム……………79
土 井 妙 子 (一 橋 大 学 大 学 院)
- 10:00 ② 環境教育におけるダブル・バインドに関する一考察……………80
片 山 純 子 (滋 賀 大 学 大 学 院)
- 10:30 ③ ドイツ・バイエルン州における環境教育の取り組み……………81
若 林 身 歌 (京 都 大 学 大 学 院)
- 11:00 ④ 市民性教育のカリキュラム開発に関する一考察
ーゴミ問題とリサイクルの学習を通してー……………82
森 照 代 (作 新 学 院 高 校)
- 11:30 ⑤ 北海道と大分県を中心にした魚附林の歴史と現況に関する
環境・総合学習教材の開発 (1)……………83
○若 菜 博 (室 蘭 工 業 大 学)
○前 田 賢 次 (北 海 道 教 育 大 学 岩 見 沢 校)
高 嶋 幸 男 (北 海 道 教 育 大 学 釧 路 校)

自由研究11

(第7講義室)

司会者 碓 井 岑 夫 (四天王寺国際仏教大学)
八 木 英 二 (滋 賀 県 立 大 学)

- 9:30 ① 成人音楽学習における共同的な学び……………84
川 村 有 美 (東 京 学 芸 大 学 連 合 大 学 院)
- 10:00 ② 「改訂版タキノミー」における教育評価論的特質
ーパフォーマンス評価の位置づけを中心にー……………85
石 井 英 真 (京 都 大 学 大 学 院)
- 10:30 ③ 高校生のプレゼンテーション発表における分かり易さの要因分析……………86
北 村 光 一 (彦 根 工 業 高 校)
- 11:00 ④ 「『表現を工夫する力』をどう考えるかーどんな表現をさせるかではなく、
どのようにして、子どもの表現がそのように成ったかだー」……………87
瀬 戸 郁 子 (香 川 大 学)
- 11:30 ⑤ 保育の方法としての「身体知」(2)
ーモノの形成的働きはいかにして機能するかー……………88
根 津 明 子 (埼 玉 純 真 女 子 短 期 大 学)

自由研究12

(第9講義室)

司会者 中村 亨(西南女学院大学)
別 惣 淳二(兵庫教育大学)

- 9:30 ① 授業実践の分析による教師の地域観
— 単元構想と授業記録をもとにしたインタビュー調査を中心に —89
千 鎬 誠(名古屋大学大学院)
- 10:00 ② 教師の実践イメージの多様性の検討— 比喻生成課題の分析を通して —90
深 見 俊 崇(大阪市立大学大学院)
- 10:30 ③ 放課後学習チューター事業における教職志望学生の学びの支援とプロセス91
○ 姫 野 完 治(秋 田 大 学)
浦 野 弘(秋 田 大 学)
小 松 正 武(秋 田 大 学)
- 11:30 ⑤ 教師が自らの「授業」を変革するとき— 小幡肇(奈良女附小)
「『気になる木』の『はっぱ』をふやそう」実践の成立の契機 —92
○ 森 脇 健 夫(三 重 大 学)
○ 岩 崎 紀 子(福 島 大 学)

自由研究13

(第11講義室)

司会者 須 田 勝 彦(北海道大学)
渡 邊 光 雄(筑 波 大 学)

- 9:30 ① ドイツ新教育運動における協同体学校に関する一考察
— テレマン街学校の授業実践を中心として —93
内 藤 由佳子(大阪市立大学大学院)
- 10:00 ② Multiple Intelligences 理論に依拠した小学校理科の授業展開94
藤 澤 義 栄(岩手県土沢小学校)
- 10:30 ③ 1920年代の米国社会科論における「科学」の位置
— アメリカ歴史学会の動向を中心にして —95
赤 沢 早 人(京 都 大 学)
- 11:00 ④ 1950～1960年代の理科教育実践にみる“生活と科学”96
三 石 初 雄(東京学芸大学)

9月28日(日) 午前

自由研究14

(視聴覚教室)

司会者 片上宗二(広島大学)
久田敏彦(大阪教育大学)

- 9:30 ① 自己生成へと導く教育方法としてのユーモア
ーキルケゴールの所論を手がかりにー.....97
伊藤潔志(東北大学大学院)
- 10:00 ② 知識構築のプロセスとしての学習活動ー知識の受容から構築へー.....98
島田希(関西大学大学院)
- 10:30 ③ 羅生門的視点による保育実践の創造
ー知の総合化をめざす保育の模索ー.....99
西川正晃(滋賀大学附属幼稚園)
- 11:00 ④ 教師チームの総合カリキュラム開発にみる拡張的学習
ーコラボレーションとネットワーキングー.....100
保坂裕子(姫路工業大学)
- 11:30 ⑤ 吉本教授学に学ぶー「学びのメカニズム」をふまえてー.....101
庄司他人男(福島学院短期大学)

自由研究15

(第22講義室)

司会者 天野正輝(龍谷大学)
寺西和子(愛知教育大学)

- 9:30 ① 指導方法からの保育(2)
ー技術と表現の間・保育者の技術は有効に働いているかー.....102
伊澤貞治(皐月幼稚園)
- 10:00 ② 総合的学習の单元デザインの方略における教師の指導性.....103
勝見健史(神戸大学附属住吉小学校)
- 10:30 ③ 教師の専門性と授業の構想ー国語の授業を中心にー.....104
麻生信子(筑紫女学園大学非常勤)
- 11:00 ④ 仲間関係の形成における教師の意図的な働きかけ.....105
近内愛子(聖徳大学短期大学部)
- 11:30 ⑤ 教師における権力的自覚論
ーStuart Hallの「Decoding」による3つの読みとの関連からー.....106
○峰司郎(福岡県勢門小学校)
○山田育男(福岡教育大学大学院)

自由研究16

(第27講義室)

司会者 川合春路(大阪樟蔭女子大学)
山田昇(共愛学園前橋国際大学)

- 9:30 ① 教師の職能発達を促す校内研修に関する研究
－教師の授業実践を中心に据えた校長の指導助言機能の考察－107
富久國夫(兵庫教育大学大学院)
- 10:00 ② 歴史を学ぶ主体を育てる現代史学習
－「意見表明」を取り入れた授業実践から－108
井ノ口貴史(大阪府立加納高校)
- 10:30 ③ 島小の教育実践109
狩野浩二(鹿児島大学)
- 11:00 ④ 授業実践の様相－解釈的研究
－「社会科の初志をつらぬく会」の実践を事例に－110
田代裕一(西南学院大学)
- 11:30 ⑤ 富山市立堀川小の授業実践研究の歩みと課題111
清水毅四郎(滋賀大学)

自由研究17

(第28講義室)

司会者 阿部昇(秋田大学)
杉山明男(神戸大学名誉教授)

- 9:30 ① 戦後文学教育史における「科学」と「生活」の位相
－教育科学研究会国語部会に焦点をあてて－112
樋口太郎(京都大学大学院)
- 10:00 ② 授業研究の発生論的アプローチ(2)
－文学教材の授業で「発達の最近接領域」をつくる方法と
授業の実際(ビデオ)－113
宮坂義彦(ノートルダム清心女子大学)
- 10:30 ③ 子どもが自ら作品の仕掛けを発見し、読みを変化・発展させる文学の学習
－「見られない、不思議な言葉」の追求を通して－114
石井俊樹(名古屋市田代小学校)
- 11:00 ④ 意見の対立を契機に、自分の意見を論証するコミュニケーション能力の
形成過程の実証的研究－読みの変化・発展をめざす授業の場合－115
森川拓也(三重県阿保小学校)
- 11:30 ⑤ 中間項の設定による授業諸要因の関連構造に関する事例研究116
○柴田好章(名古屋大学)
的場正美(名古屋大学)
○石原正敬(三重県議会議員)
山川法子(名古屋大学大学院)
安達仁美(名古屋大学大学院)

9月28日(日) 午前

自由研究18

(第29講義室)

司会者 池野 範 男 (広 島 大 学)
山 田 綾 (愛 知 教 育 大 学)

- 9:30 ① 1990年代の中国の〈素質教育〉研究の方法論的検討
—〈素質〉の概念の理論的展開を中心として—117
刘 煜 (中央大学大学院)
- 10:00 ② 中国のカリキュラム改革と社会科118
木 全 清 博 (滋 賀 大 学)
- 10:30 ③ 文化創造としての和文化教育の実践
—心技体の場づくりを意図して—119
中 村 哲 (兵 庫 教 育 大 学)
- 11:00 ④ Sexual Minority が照射する教育実践の課題120
吉 田 和 子 (岐 阜 大 学)
- 11:30 ⑤ インターネットを活用した多文化共生教育の実践的研究
—帰入国児童教室でのデジタルコンテンツ制作を通して—121
前 田 真 理 (広島市白島小学校)

課題研究Ⅲ

新しい学カーメディア・リテラシーを
どう育成していくかー

(第35講義室)

コーディネーター・司会者

水越敏行(関西大学)

小柳和喜雄(奈良教育大学)

提案者

生田孝至(新潟大学) 教師に求められるメディアリテラシー ……122

小笠原喜康(日本大学) メディアリテラシーからサイバーリテラシーへ
……………124

堀田龍也(静岡大学) 情報教育の立場から見たメディア・リテラシー
教育の可能性 ……126

人見和宏・澤田一彦(滋賀大学教育学部附属中学校)

主体的に情報を活用する能力の育成を目指す情報生活科の新設と評価…127

(設定趣旨)

メディア・リテラシーを巡る様々な取り組みが行われてきている。このような中、日本のメディア・リテラシー教育をどのように育てていくか、具体的な見通しや方法を検討していくことが求められてきている。そこで次のような3つの視点から、検討を加えることにした。

一つは、歴史的な視点から日本の放送・視聴覚教育で培われてきた遺産から学び、その連続性と非連続性を明らかにすること。

二つめは、メディア・リテラシーの教育機能と領域について理論的・実践的な検討を加えること。

三つめは、メディア・リテラシー教育を育て担っていく教師に求められる資質はどのようなものか、教師教育研究の遺産からパースペクティブを得ること。

これを実現していくために(1)実践研究の立場から、(2)メディア教育(放送・視聴覚教育)の研究の立場から、(3)情報教育の立場から、(4)教師教育の立場から、各専門家に課題研究の提案をご依頼し、本課題研究を設定した。

課題研究Ⅳ

授業実践研究・子どもたちはどこでどう学んでいるのか
—授業実践研究の方法論の模索(国語科を中心として)—

(第25講義室)

司会者

難波 博孝(広島大学)
堀江 伸(滋賀大学)

コーディネーター

清水 毅四郎(滋賀大学)

提案者

大杉 稔(滋賀県今津東小学校) 詩作における子どもの学びの生成
—視覚・聴覚刺激はどのように作用するか—128
藤田 喜人(富山市堀川小学校) 詩を通して、自分のくらしをみつめ、表現力
を高めていく子どもの育成 ……………130
牧戸 章(滋賀大学) 「ことばの学び」生成のための授業実践研究…131

指定討論者

鶴田 清司(都留文科大学)
成田 秀夫(河合文化教育研究所)

※学会前日の9月26日(金)午後2時より大杉稔先生が授業を公開されます。

- 3年国語科/詩の授業(主に「書くこと」の領域)
- 於:今津東小学校(JR湖西線:近江今津駅からタクシーで5分)
- 授業参観希望者は、学会事務局(TEL. 0824-24-6744)へ9月12日(金)までにお申し込み下さい。なお、人数に制限があるため、希望者全員の要望にお応えできない場合があります。

(設定趣旨)

昨年の第38回大会の課題研究Ⅲ「学校教育における『臨床』研究を問い直す」では、臨床研究のあり方について検討された。また同じく課題研究Ⅴ「中学校授業実践の研究」では、中学校国語科授業と総合的な学習を結び付けた実践の検討がなされた。

今回は一つには、臨床的なアプローチは授業実践研究においてどのような有効性をもつのだろうか、ということについて検討する。

二つには、小学校は中学校のように教科担任制をとらないので一教科枠を自ずと越えていく不分科(合科)的な授業実践を展開し易いが、教科指導そのものの発展的な総合化を図っていくことの積極的な意味について検討する。

三つめに、今日、学級は社会性を学ぶ生活集団と捉え、教科授業は別途柔軟に学習集団として編成し直す案も出されているが、小学校における生活集団と学習集団の関係は授業実践や子どもたちの学びの質をどのように特徴づけるのかについて検討する。

以上の課題意識を統合していく立場から、小学校国語科を中心に二つの授業実践記録を取り上げ、子どもの学びが生成し成立する時間と空間はどのようなものかについて討論し、授業実践研究の方法論の模索の契機になればと考える。

9月28日(日) 15:10~17:00

ラウンドテーブル①

教師の「授業スタイル」にかかわる力量形成への ライフヒストリーのアプローチ

(第6講義室)

司会者

森 脇 健 夫 (三 重 大 学)

コーディネーター

岩 崎 紀 子 (福 島 大 学)

司会者

鋒 山 泰 弘 (追手門学院大学)

藤 原 顕 (兵庫県立看護大学) 本ラウンドテーブル設定の趣旨説明と本研究史の
overview

事例研究の報告

松崎正治 (鳥取大学)・藤原 顕 (兵庫県立看護大学) 遠 藤 瑛 子実践
松下佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター) 寺 岸 和 光実践
森脇健夫 (三重大学)・岩崎紀子 (福島大学) 小 幡 肇実践

山 崎 準 二 (静 岡 大 学) コメンテーターからの論点提起
～3つの事例研究からみえてくるもの～

(設定趣旨)

一般には、授業の目標・内容によって授業の方法、形態は変わるものであるが、その違いを超えて、一貫した「授業スタイル」を持った教師たちが存在する。そうした「授業スタイル」をどのように持つに至ったのか、個々の授業実践史を追うとともに、インタビューによって授業観の展開、転換を追ってみたい(「ライフヒストリーのアプローチ」)。個々の教師がいかに自らの「授業スタイル」を獲得するに至るか、そこにどのような個人的、社会的経験が関与しているのか、私たちは今回、三人の教師の「カリキュラム経験」(自らの授業実践をつくりだし、実践にうつし、それを振り返ることによって経験として蓄積されたもの)を検討の素材として提供したい。

こうした「授業スタイル」の獲得を私たちは教師の力量形成の重要な一局面と考えるのだが、その可否を含め、さまざまな批判を仰ぎたいし、経験の交流も行うことができたらと考えている。

9月28日(日) 15:10～17:00

ラウンドテーブル②

学力の評価に関する総合的研究

(第7講義室)

企画

天野正輝(龍谷大学)・藤田昌士(元・立教大学)

中野和光(福岡教育大学)・小泉祥一(東北大学)

司会者

的場正美(名古屋大学)・小泉祥一(東北大学)

提案者

藤原幸男(琉球大学) 学力問題再考

田中耕治(京都大学) 学力評価について

中野和光(福岡教育大学) 教育における時間の問題に関する研究
ーアメリカの場合を中心にしてー

小泉祥一(東北大学) カリキュラム経営から見た学力評価の問題

コメンテーター

市川博(帝京大学)

寺西和子(愛知教育大学)

(設定趣旨)

学力評価の問題を、教育本質論、教育技術論、教育経営論の角度から多角的、総合的に検討するために本ラウンドテーブルを設定した。

学習指導要領と指導要録の改訂、実施にともない、この間、学力評価の問題は、おもに各学校における「評価規準」や「評価基準」の作成など、教育目標(教科等目標、単元目標など)との関連において検討されてきた。

このような状況に鑑み、本ラウンドテーブルでは、現在の学力評価の方法、とりわけ目標に準拠した評価の方法の実態を分析し、学力評価を、学力論、評価論、教育における時間論、時間管理論の視点から総合的に検討することにした。

ラウンドテーブル③

「授業研究の方法論を問う」

(第9講義室)

コーディネーター・話題提供者

宮坂義彦(ノートルダム清心女子大学)

指定討論者

阿部昇(秋田大学)

白銀一彦(東京女子大学)

豊田ひさき(大阪市立大学)

司会者

柴田義松(東京大学名誉教授)

(設定趣旨)

教室の授業は現在、教材認識の面でも深刻な問題を抱えている。30年前とくらべ、さしたる進展はない。それどころか悪化の傾向すら認められる。この間、教育方法学研究者による多くの授業研究がおこなわれ続けてきた。しかし教育方法学は授業現場に有効な方法を提供することができなかった。にもかかわらず教育方法学者の側の危機意識はかわらず低調である。教育方法学自体にその任に堪える力がないのだろうか。そんなはずはない。問題の本質は、常識や通念を学問的に批判する気風の衰えに象徴されている。いままでないがしろにされてきた常識や通念と科学研究との区別を明確にすることが急務である。それはすぐれて授業研究の方法論の問題である。

以上の認識にもとづいてまず、私の授業研究の方法論を私のおこなっている研究実践に即して提示してみたい。指定討論者を含む参加者の厳しい批判を期待する。ここでの検討が授業研究方法論の問題を究明するひとつのきっかけになることを願っている。

授業研究の目的は、授業で子どもの発達に影響をおよぼす有効な方法を開発することだと私は考えている。その立場から、方法論的問いの核心は、研究者の主張する方法が授業で子どもの発達に効果的に作用した事実を証拠として示すことだと考える。

研究方法は、理念と研究方法(ハウ・トゥ)とから構成されている。各研究方法を統一しているのが理念である(内田義彦『社会認識の歩み』)。授業研究で仮説演繹法をとる場合、研究方法は、仮説、実践、観察、検証などの手続きをもつ。研究対象は授業(教材内容、方法、過程、子ども・学級、教師など)である。さしあたっての方法論的課題は、発達と効果の観点から、あらためて理念とハウ・トゥを問いなおすことだと考える。

私は発達と非発達の授業の方法論の決定的な差異を次の5点にしばって問題提起をおこなうつもりである。①理念の問題(私が考える理念は発達である。子どもの認識の発達と研究の前提としての歴史的・発生論的アプローチである)。②検証。③教材内容と方法の関係。④授業におけるコミュニケーション。⑤授業方式。(この点については、自由発表で発表する「授業研究の発生論的アプローチ(2)——文学教材の授業で『発達の最近接領域』をつくる方法と授業の実践——」でより具体的に論及するつもりである)

(今回110分間のラウンドテーブルが開設されることになり、①開発研究の証拠となるコミュニケーション過程(意見の対立過程と論証過程)と②一学級の数教科(国語、体育、音楽、音楽劇、算数、社会)にわたる授業の過程・結果(子どもの自覚性・随意性の発達による形式陶冶)のビデオによる揭示が可能になった。最初はこの企画だけをおこなう予定であったが、司会者・指定討論者の協力を得て、これに関連づけて方法論の論議を合わせておこなうことにしたのが設定の経過である)

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法 9.	現代訓育理論の探究	1 9 7 7	(2,100円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1 9 8 2	(2,600円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 4	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,400円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,942円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(1,960円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	－新学習指導要領の教育方法学的検討－	1 9 9 9	(1,860円)
			(価格は税別)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚 2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,800円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,800円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2 0 0 2	(1,900円)
			(価格は税別)

最新刊・教育方法32

『新しい学びと知の創造』

〈内 容〉

I. 新しい学びと知の創造

II. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚 1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516